

**今日的課題・本校の教育課題・
教師の願い**

- ・多様な価値観をもつ人との関わりにおいて、
思いや考えを豊かに伝え合えること
- ・自分の役割をもち人のために行動できること

学校教育目標

- ・じょうぶな子ども
- 助け合う子ども
- 考える子ども
- ・やりぬく子ども

児童の実態

- 友達と仲良くしたい思いが強い。
- 素直でひととのふれあいを好む。
- 自分の思いを言葉で表すのが苦手。
- 多様な関わり方を知らない。

研究主題

互いの思いや考えを伝え合い、進んで関わる児童の育成

研究仮説

児童一人一人がよりよい学級や学校生活をつくろうとする活動に取り組むことにより、思いや考えを伝え合い、進んで関わり合える児童が育成できるであろう。

目指す児童像

高学年：学校内での関わりにおいて、相手を信頼し支え合い、違いを認めて高め合おうとする児童

中学年：学級内での関わりにおいて、自分や他者のよさを認め、協力し合おうとする児童

低学年：自分と友達との関わりにおいて、自分や友達のよさに気づき、仲良く助け合おうとする児童

身に付けさせたい力（研究の視点）

- ① 課題をとらえる力※1
- ② 相手を尊重し、自ら相手にはたらきかける力※2
- ③関わりを通じて自分の考えを更新する力※3
- ④自分を見つめ、自己肯定感をもって人と接する力

※1：よりよいクラスの実現に向かって自分達に必要な力は何かを考え、そのために自分ができることを考えること

※2：相手を尊重するとは：相手に共感したり立場を考えたりできるということ。

※3考えを更新するとは：友達との伝え合いを通じてよりよい考えを生み出し実践すること。

主題に迫るための手だて

- ・各教科領域との関連を意識した特活指導
- ・常時活動の充実
- ・振り返りのワークシート活用（縦割り班活動等で）
- ・話し方聞き方名人、ハンドサインなどの掲示物
- ・ハートフルデーでの関わり合いの活動
（ハートフルデー、縦割り班、幼少交流、高齢者・国際交流等）
- ・SSTの活用（自己有用感を高める、認め合う体験）
- ・校内年間計画の見直しと計画的実践
- ・アンケートによる児童実態把握
- ・各学年の取り組みの共有化（分科会・全体会で）
- ・教員のプレゼンによる指導方法の学びあい

研究内容

- ・主題に即した単元構想の在り方と多教科領域での授業実践
- ・言語活動の工夫と実施 常時活動の工夫と実施
- ・児童の変容をとらえるアンケートの実施 教師同士の学び合いのある協議会、プレゼンテーション